

# グローバル・バランス・ファンド (安定型) / (安定成長型) / (成長型)

追加型投信 / 内外 / 資産複合



## ■三菱東京UFJ銀行からのご留意事項

◎当ファンドは預金ではなく、三菱東京UFJ銀行は元本を保証しておりません。また、預金保険制度の対象ではありません。◎投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動リスク等があり、お受取金額が投資元本を大きく下回ることがあります。したがって投資元本および運用成果が保証されているものではありません。◎ご購入に際しては、購入時手数料(2.16%(税込))および保有期間中の運用管理費用(信託報酬)等の費用がかかります。◎ご購入に際しては、必ず最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」により商品内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。◎当ファンドをお取引いただくか否かが、三菱東京UFJ銀行におけるお客さまのほかの取引に影響を与えることはありません。◎当ファンドの購入代金に充当するための借入れを前提とした購入申込みはお受けできません。

### [金融商品仲介口座を通じたご購入について]

●当ファンドは三菱東京UFJ銀行の投資信託口座のほか金融商品仲介口座(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座)を通じたお取扱いをしております。●金融商品仲介口座を通じたご購入に際しては、あらかじめ三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座の開設が必要です(金融商品仲介口座の開設をお申込みいただくと、お取引口座は三菱UFJモルガン・スタンレー証券に開設されます)。

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。投資信託説明書(交付目論見書)は、三菱東京UFJ銀行の本・支店までご請求ください。

### 投資信託口座を通じたお取扱いの場合

お申込み/販売会社は



三菱東京UFJ銀行

株式会社三菱東京UFJ銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号  
加入協会：日本証券業協会/一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当行の苦情処理措置および紛争解決措置は  
一般社団法人全国銀行協会または特定非営利活動法人証券・  
金融商品あっせん相談センターを利用します。  
全国銀行協会相談室：0570-017109 / 03-5252-3772  
証券・金融商品あっせん相談センター：0120-64-5005  
受付時間：月～金曜日/9:00～17:00(祝日・12/31～1/3等を除く)

### 金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合

お問合せ・ご照会は



三菱東京UFJ銀行

株式会社三菱東京UFJ銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号  
加入協会：日本証券業協会/一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

委託金融商品取引業者/販売会社は

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号  
加入協会：日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

ともに、その先へ。

グローバル・バランス・ファンド(安定型)を「(安定型)」, グローバル・バランス・ファンド(安定成長型)を「(安定成長型)」およびグローバル・バランス・ファンド(成長型)を「(成長型)」, ならびにこれらを総称して「当ファンド」ということがあります。また、各々を「各ファンド」ということがあります。

## ファンドの目的

目標リスク水準に応じたリスクのコントロールをはかりつつ、信託財産の十分な成長をはかることを目的として運用を行います。

## ファンドの特色

### 1 世界各国の金融商品取引所上場(これに準ずるものを含みます。)の株式および世界各国の債券を主要投資対象とし、分散投資を行うバランス型ファンドです。

- ◆ 株式および債券への投資にあたっては、世界各国の金融商品取引所上場投資信託証券(ETF)を活用する場合があります。  
※各ファンドの信託財産が小規模の場合は、当該各ファンドの株式および債券への投資の大部分についてETFを利用します。
- ◆ 組入比率の調整を目的として、先物取引も利用します。
- ◆ 株式および債券の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。

### 2 株式や債券等の資産配分を調整することにより、リスクのコントロールをはかります。目標リスク水準に応じて3つのファンドから選択できます。

- ◆ 株式や債券等の資産配分を調整することにより、リスクのコントロールをはかります。
  - ポートフォリオの資産配分は、定性的な要素(投資対象資産に対する投資環境見通し等)および定量的な要素(ポートフォリオの目標リスク水準、投資対象資産のリスク等)を判断基準として決定されます。
  - 資産配分の調整は、ポートフォリオのリスク水準\*が、目標リスク水準からあらかじめ定められた範囲を超えて乖離した場合や投資対象資産に対する投資環境見通しに変更があった場合等に行われます。  
\*「ポートフォリオのリスク水準」とは、ポートフォリオのリスクを管理するために算出する推定リスクのことをいい、ファンドの騰落率(実績)から算出した標準偏差とは異なります。
- ◆ 目標リスク水準に応じて3つのファンドから選択できます。
  - 目標リスク水準とは、基準価額の変動リスクをコントロールするために用いる目標値です。当該数値はあくまで目標値であり、実際の運用では、ポートフォリオのリスク水準が目標リスク水準を上回る場合や下回る場合があります。
  - リスク水準とは、ポートフォリオの評価額の変動リスクを年率標準偏差で表示したものです。

#### <各ファンドの目標リスク水準>

(安定型):年率標準偏差3% (安定成長型):年率標準偏差6% (成長型):年率標準偏差10%

※各ファンドの実際の基準価額の変動の大きさが、必ずしも目標リスク水準の順になることを保証するものではありません。

### 3 実質外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指します。

- ◆ ETFについては、各ETFのベンチマークの通貨構成等に応じて為替ヘッジを行います。  
※資産配分の機動的な調整を行うため、為替ヘッジ比率を低下させる場合があります。

資金動向や市況動向、残存信託期間等の事情によっては、特色1~特色3のような運用ができない場合があります。

### 4 モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに運用指図の権限を委託します。

- ◆ モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの英国拠点です。
- ◆ モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントは、モルガン・スタンレーの資産運用部門として世界20カ国に展開し、様々な運用戦略を世界の投資家に提供しています。(2017年3月末現在)

### 5 信託財産の十分な成長に資することに配慮し、収益の分配を行わないことがあります。

- ◆ 毎年10月24日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

#### 収益分配方針

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定しますが、信託財産の十分な成長に資することに配慮して分配を行わないことがあります。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。また、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

## ■ 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

### 株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

### 金利変動リスク

投資している債券の発行通貨の金利水準が上昇(低下)した場合には、一般的に債券価格は下落(上昇)し、当ファンドの基準価額の変動要因となります。また、組入債券の残存期間や利率等も価格変動に影響を与えます。例えば、金利水準の低下を見込んで残存期間が長い債券の組入比率を大きくしている場合等には、金利変動に対する債券価格の感応度が高くなり、当ファンドの基準価額の変動は大きくなります。

### 価格変動リスク

当ファンドは、株式および債券への投資にあたって、世界各国の株式および債券に係る金融商品取引所上場投資信託証券(ETF)を活用する場合があります。また、世界各国の株式および債券に係る先物取引も利用します。これらについても、株価変動および金利変動の影響を受けることとなり、当該価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

### 為替変動リスク

当ファンドは、外貨建資産に投資を行いますので、為替変動リスクが生じます。実質外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指しますが、設定や解約等の資金動向、為替ヘッジのタイミングおよび範囲、ならびに市況動向等の要因により、完全に為替変動リスクを排除することはできません。

また、資産配分の機動的な調整を行うため、為替ヘッジ比率を低下させる場合があります。その場合、為替ヘッジが行われていない部分については投資している有価証券の発行通貨の為替変動の影響を受けることとなります。

なお、円金利がヘッジ対象となる外貨建資産の通貨の金利より

低い場合、円とヘッジ対象となる外貨建資産の通貨との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

### 信用リスク

投資している有価証券等の発行体の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、当ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。

### 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。

### カントリー・リスク

株式および債券の発行国・地域の政治や経済、社会情勢等の変化(カントリー・リスク)により金融・証券市場が混乱して、株式および債券の価格が大きく変動する可能性があります。新興国のカントリー・リスクとしては主に以下の点が挙げられます。

- ・先進国と比較して経済が一般的に脆弱であると考えられ、経済成長率やインフレ率等の経済状況が著しく変化する可能性があります。
- ・政治不安や社会不安、他国との外交関係の悪化により海外からの投資に対する規制導入等の可能性があります。
- ・海外との資金移動に関する規制導入等の可能性があります。
- ・先進国とは情報開示に係る制度や慣習等が異なる場合があります。

この結果、新興国の株式および債券への投資が著しく悪影響を受ける可能性があります。

**上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。**

## ■ その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

## ■ リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

なお、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

## ■ ファンドのしくみ ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。なお、当ファンドはグローバル・バランス・ファンド(安定型) マザーファンド、グローバル・バランス・ファンド(安定成長型) マザーファンド、グローバル・バランス・ファンド(成長型) マザーファンドを通じて実質的な運用を行います。

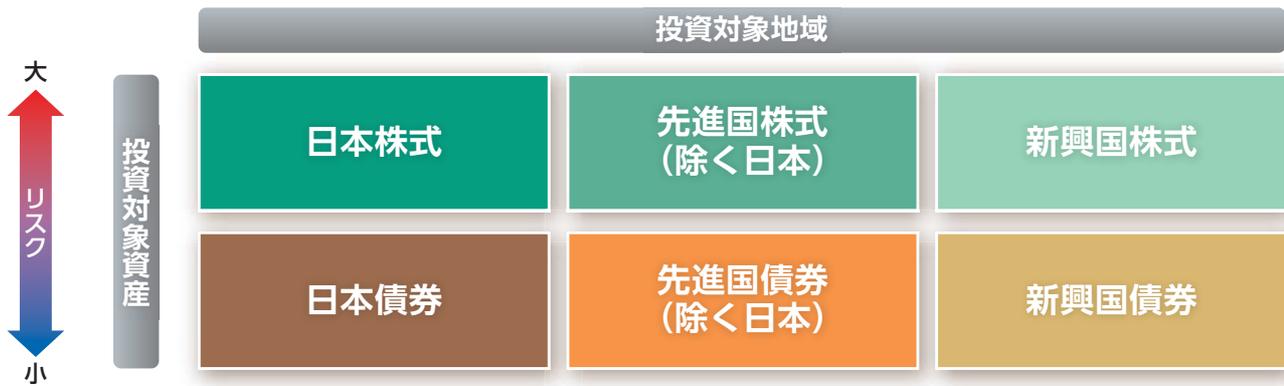
# ファンドのポイント



## 多様な投資対象

■ 当ファンドは世界各国の株式や債券を主要投資対象とします。特に債券については、国債や投資適格社債、ハイ・イールド債券、物価連動債、資産担保証券など様々な種類の債券を投資対象とします。

### ■ 主な投資対象の例



※上記の投資対象のすべてに投資を行うものではありません。また、投資対象は将来変更される可能性があります。  
 ※各ファンドの信託財産が小規模の場合は、当該各ファンドの株式および債券への投資の大部分についてETFを利用します。  
 ※組入比率の調整を目的として、先物取引も利用します。  
 ※投資環境によっては、債券のリスクが株式のリスクを上回る場合があります。

当ファンドでは、上記の投資対象のうち、外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。



## 分散投資の効果

■ 分散投資とは、値動きの異なる様々な資産に分散して投資を行うことをいいます。分散投資を行うことにより、個別の資産のみに投資した場合と比較して、偏った動きが少なくなり、リスクの低減が期待されます。

■ 指数を使用したシミュレーション(円ベース)では、2003年以降、「6資産分散投資\*1」の年間パフォーマンスの順位は、おおむね3~4位で推移しており、相対的に安定したパフォーマンスとなりました。

### ■ (ご参考) 各資産の年間パフォーマンスの推移(円ベース)

(期間: 2003年~2017年\*2)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年*2
6資産分散投資*1		20.6%	54.4%	34.0%			83.7%			33.8%	54.8%	22.2%			
日本国債	41.1%	10.9%	44.7%	24.0%			37.6%			32.5%	54.6%	21.0%			8.6%
先進国国債(除く日本)	23.0%	10.3%	26.7%	14.5%	31.2%		33.2%			32.4%	28.0%	16.1%		8.6%	3.3%
新興国国債	20.5%	9.5%	26.5%	11.1%	5.4%		28.7%			23.8%	22.6%	14.3%		7.2%	1.9%
日本株式	16.6%	7.4%	24.2%	10.2%	4.6%		9.3%	3.9%	2.2%	21.8%	18.6%	11.7%	10.3%	5.7%	1.1%
先進国株式(除く日本)	10.3%	6.8%	9.6%	7.3%	4.4%		7.3%	2.4%	1.8%	20.9%	15.0%	9.8%	1.6%	3.7%	0.5%
新興国株式	5.6%	1.3%	0.7%	0.3%	2.6%	3.7%	0.9%	0.7%	0.1%	1.8%	2.2%	4.9%	1.3%	3.7%	0.1%
	-0.7%				-0.4%	-15.5%		-1.7%	-7.6%				-0.9%	-0.4%	-2.4%
					-10.1%	-28.6%		-2.1%	-9.0%				-1.1%	-2.7%	
						-32.9%		-2.3%	-18.6%				-4.5%		
						-42.5%		-12.6%	-22.4%				-14.3%		
						-52.6%									
						-62.0%									

■ 6資産分散投資\*1 
 ■ 日本国債 
 ■ 先進国国債(除く日本) 
 ■ 新興国国債 
 ■ 日本株式 
 ■ 先進国株式(除く日本) 
 ■ 新興国株式

\*1 6資産分散投資は、日本国債、先進国国債(除く日本)、新興国国債、日本株式、先進国株式(除く日本)、新興国株式の6資産に均等に投資した場合のパフォーマンスを記載しています。  
 \*2 2017年4月末までのデータを使用しています。  
 ※上記は指数を使用しており、ファンドの運用実績を示すものではありません。指数については、【本資料で使用している指数について】をご覧ください。  
 ※日本国債、日本株式以外は、米ドル建の指数を使用しており、三菱UFJ国際投信が円換算しています。  
 ※上記は、あくまで分散投資の有効性を示すためのシミュレーションであり、各ファンドが6資産に均等に投資することを示すものではなく、また、各ファンドの運用実績でもありません。  
 (出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成



## 目標リスク水準に応じて3つのファンドから選択可能

■ 目標リスク水準に応じて3つのファンドから選択できます。

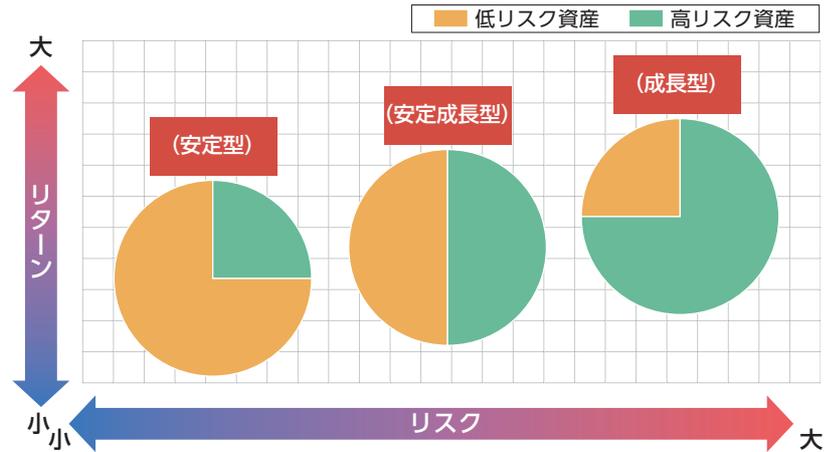
### ■ 各ファンドの目標リスク水準

(安定型)	年率標準偏差* 3%
(安定成長型)	年率標準偏差* 6%
(成長型)	年率標準偏差* 10%

\* 標準偏差とは、リターンの変動の大きさを定量的に測定する尺度です。標準偏差の値が大きいほど、ばらつきが広く、リスクが大きいとされ、逆に値が小さいほど、ばらつきが狭く、リスクは小さいとされます。

※各ファンドの実際の基準価額の変動の大きさが、必ずしも目標リスク水準の順になることを保証するものではありません。

### ■ 配分比率とリスク・リターン特性のイメージ

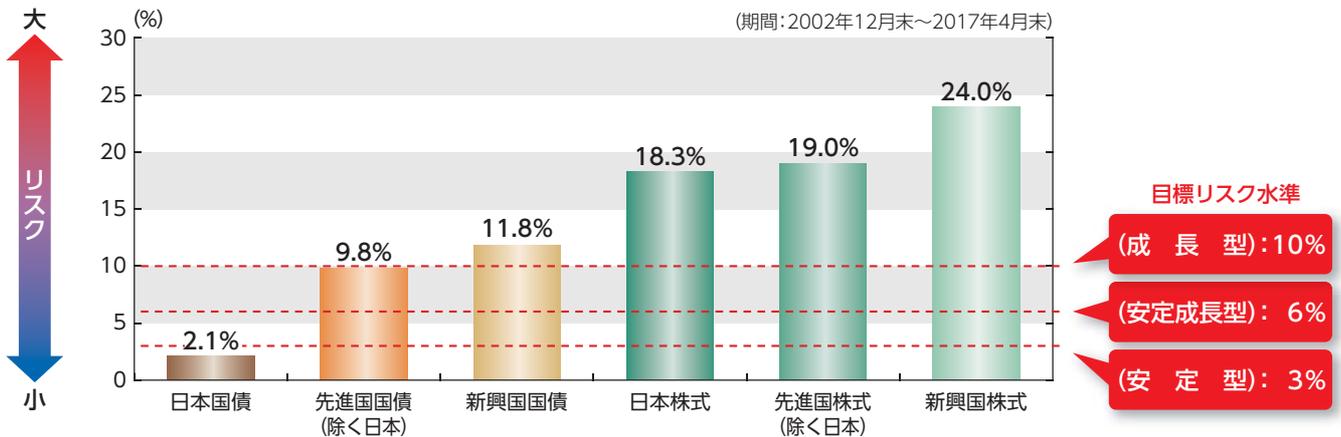


※上記は、各ファンドにおいて、投資対象資産を2資産(低リスク資産と高リスク資産)とした場合の配分比率およびリスク・リターン特性のイメージ図です。あくまでイメージ図であり、2資産の場合の配分比率およびリスク・リターン特性を正確に表すものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。



## 相対的に低いリスク水準

### ■ (ご参考)各資産とのリスク水準の比較(円ベース)



※上記は指数を使用しており、ファンドの運用実績を示すものではありません。指数については、【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

※日本国債、日本株式以外は、米ドル建の指数を使用しており、三菱UFJ国際投信が円換算しています。

※リスクは月次騰落率の標準偏差を年率換算したものです。

※各ファンドの実際の基準価額の変動の大きさが、必ずしも目標リスク水準の順になることを保証するものではありません。

※計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

### 【本資料で使用している指数について】

●日本国債:シティ日本国債インデックス シティ日本国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。

●先進国国債(除く日本):シティ世界国債インデックス(除く日本) シティ世界国債インデックス(除く日本)とは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

●新興国国債:JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイド JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している米ドル建ての新興国債および国債に準じる債券のパフォーマンスを表す指数で、指数構成国の債券発行残高に応じて構成比率を調整した指数です。免責事項等については、委託会社のホームページ(<http://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)でご確認ください。

●日本株式:MSCI日本インデックス(税引き前配当込み) MSCI日本インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本の株価指数です。

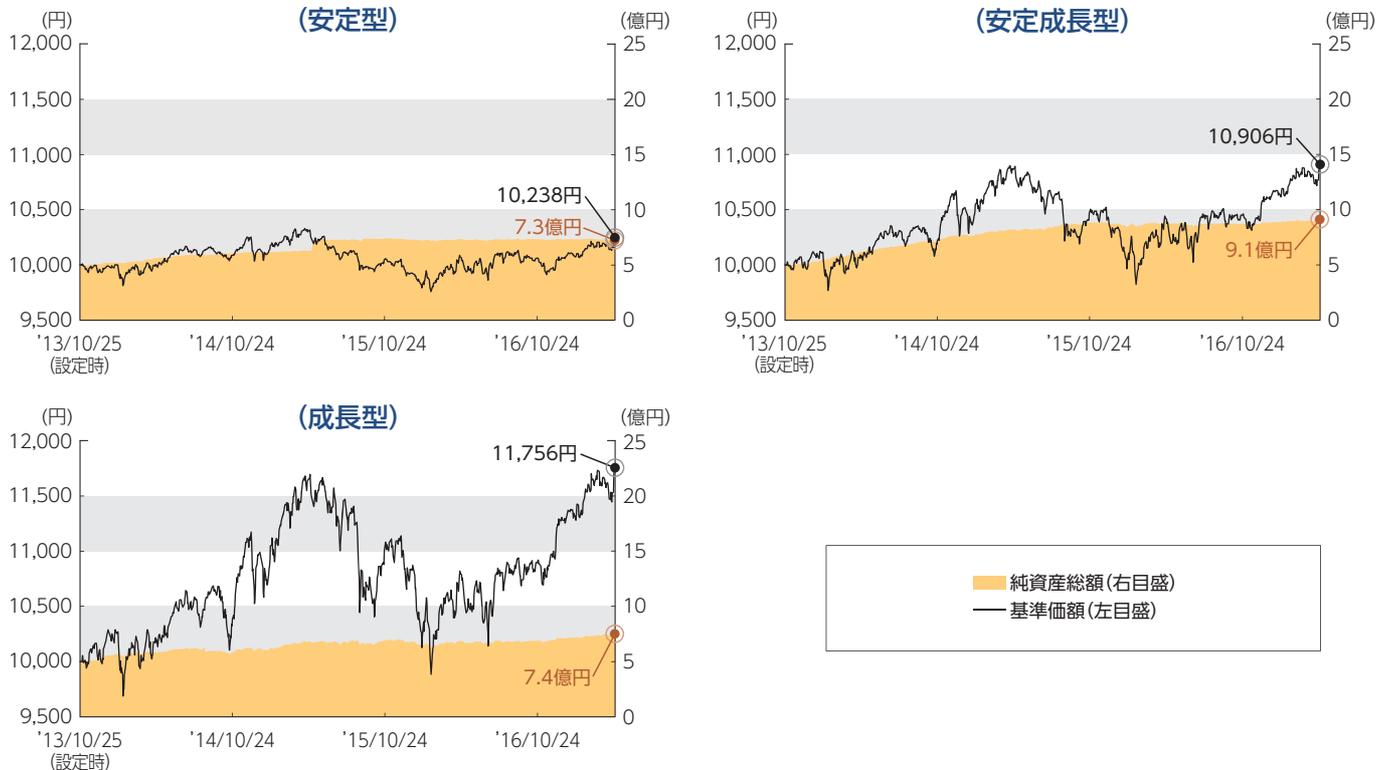
●先進国株式(除く日本):MSCIコクサイインデックス(税引き前配当込み) MSCIコクサイインデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。

●新興国株式:MSCIエマージング・マーケットインデックス(税引き前配当込み) MSCIエマージング・マーケットインデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。

各指数に対する著作権およびその他の財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

## 基準価額・純資産等の推移

### ■ 基準価額・純資産の推移(期間:2013年10月25日~2017年4月28日)



### ■ 課税前分配金の推移(1万口当たり)

	(安定型)	(安定成長型)	(成長型)
'16/10	0円	0円	0円
'15/10	0円	0円	0円
'14/10	0円	0円	0円
設定来累計	0円	0円	0円

※基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。  
 ※収益分配金は一定の分配金額をお約束するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

## ■ ポートフォリオの状況

### ■ 資産別組入比率

資産	(安定型)	(安定成長型)	(成長型)
日本株式	6.6%	10.3%	16.1%
先進国株式	22.6%	38.7%	56.8%
新興国株式	5.1%	7.5%	12.6%
日本債券	35.9%	22.7%	4.6%
先進国債券	19.1%	10.1%	3.8%
新興国債券	5.5%	4.6%	2.6%
先物等	—	—	—
現金等	5.3%	6.1%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※比率とは、各ファンドの純資産に対する比率(債券については未収利息等を含みます。)であり、マザーファンドの組入比率に基づき算出した実質ベースの数値で表記しています。  
 ※現金等には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。  
 ※先物等の建玉がある場合は、合計欄を表示しておりません。  
 ※四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

### ■ リスク水準(年率)

	(安定型)	(安定成長型)	(成長型)
目標リスク水準	3.0%	6.0%	10.0%
ポートフォリオのリスク水準	5.7%	9.0%	13.3%

※「ポートフォリオのリスク水準」とは、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドがポートフォリオのリスクを管理するために算出する推定リスクのことをいい、ファンドの騰落率(実績)から算出した標準偏差とは異なります。



モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの「グローバル・バランスト・リスク・コントロール・チーム」が運用を行う代表口座の運用実績

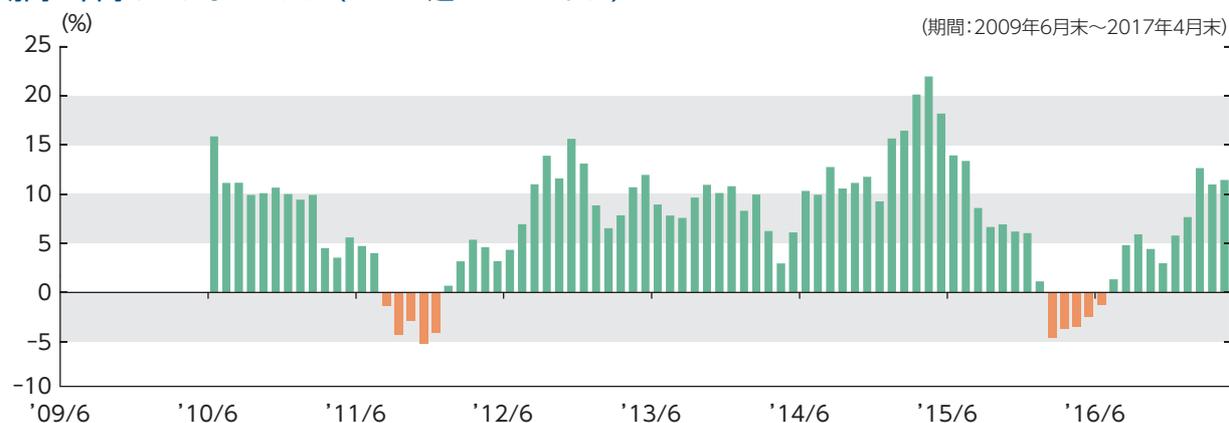
- 当ファンドのマザーファンドは、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの「グローバル・バランスト・リスク・コントロール・チーム」(以下、「MSIM GBaRチーム」ということがあります。)が運用を行います。
- MSIM GBaRチームが当ファンドのマザーファンドと同様の運用プロセスで運用を行う代表口座\*1の運用実績は下記の通りです。2009年6月の運用開始以来、良好なパフォーマンスをあげています。

\*1 代表口座の目標リスク水準は、年率標準偏差4~10%の範囲に設定されています。

■ パフォーマンスの推移(ユーロ建ユーロヘッジ)



■ 投資期間1年間のパフォーマンス(ユーロ建ユーロヘッジ)



※ 上記はあくまでMSIM GBaRチームが運用を行う代表口座の過去の実績であり、当ファンドおよび当ファンドのマザーファンドの実績ではありません。また、将来の成果を示唆・保証するものではありません。当ファンドのマザーファンドは代表口座と同様の運用プロセスで運用を行いますが、投資対象、目標リスク水準、表示通貨、運用コスト、為替ヘッジコスト、準拠法等が異なるため、同様のパフォーマンスにはなりません。

※ 代表口座の運用実績は、運用報酬控除前、ユーロ建ユーロヘッジです。

※ 上段のグラフは2009年6月=100として指数化。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。リスクは月次騰落率の標準偏差を、リターンは月次騰落率の平均をそれぞれ年率換算したものです。

※ 下段のグラフは2010年6月~2017年4月の各月末時点における過去1年間のリターンを記載しています。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドのご紹介

- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの英国拠点です。
- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントは、モルガン・スタンレーの資産運用部門として世界20カ国に展開し、様々な運用戦略を世界の投資家に提供しています。また、運用資産残高は約48.7兆円\*2にのぼります。(2016年12月末時点)



モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの本社ビル(ニューヨーク)

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

\*2 1米ドル=116.635円(2016年12月末時点)で換算しています。

# グローバル・バランス・ファンド(安定型)/(安定成長型)/(成長型)

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※三菱東京UFJ銀行でお申込みの場合

## お申込みメモ

**購入単位**  
分配金再投資コース(累積投資コース):1万円以上1円単位  
購入単位には購入時手数料(税込)が含まれます。再投資される分配金については、1口単位とします。投資信託口座を通じたお申込みの場合は上記以外の購入単位でのお取扱いもございます。くわしくは、三菱東京UFJ銀行のホームページをご覧ください。

**購入価額**  
購入申込受付日の翌営業日の基準価額  
※基準価額は1万口当たりで表示されます。

**換金単位**  
投資信託口座:1円以上1円単位、または1口以上1口単位、または全部。  
金融商品仲介口座:1口以上1口単位、または全部。

**換金価額**  
換金申込受付日の翌営業日の基準価額

**換金代金**  
原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目にお支払いします。

**申込不可日**  
ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行、ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかが休業日の場合には、購入・換金はできません。

**申込締切時間**  
原則として、午後3時までに受付けたものを当日の申込分とします。

**換金制限**  
各ファンドの資金管理を円滑に行うため、原則として1日1件5億円を超える換金はできません。

**購入・換金申込受付の中止および取消し**  
金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。

**信託期間**  
2023年10月24日まで(2013年10月25日設定)

**繰上償還**  
各ファンドについて、受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となる場合があります。

**決算日**  
毎年10月24日(休業日の場合は翌営業日)

**収益分配**  
年1回の決算時に分配を行います。  
ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。  
収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少および基準価額の下落要因となります。収益分配金は税金を差引いた後、原則として再投資されます。  
※分配金を再投資せず、お客様の指定口座にご入金するお取扱いを希望される場合は、分配金出金(定期引出契約)をお申込みください。

**課税関係**  
課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

**スイッチング**  
各ファンド間でのスイッチングはできません。

## ファンドの費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

<b>購入時</b>	<b>購入時手数料</b>	購入金額(購入価額×購入口数)× <b>2.16%</b> ( <b>税抜 2.00%</b> )で得た額 ※インターネット取引でご購入の場合は、上記手数料率から10%優遇。
<b>換金時</b>	<b>信託財産留保額</b>	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

<b>運用管理費用(信託報酬)</b>	各ファンドの日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.5498%</b> ( <b>税抜 年率1.4350%</b> )をかけた額
<b>保有期間中 その他の費用・手数料</b>	以下の費用・手数料についても各ファンドが負担します。 ・監査法人に支払われる各ファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。  
※投資対象である金融商品取引所上場投資信託証券(ETF)には運用等にかかる費用が発生しますが、投資するETFは固定されていない等により、あらかじめ金額および上限等を記載することはできません。  
※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル

0120-151034

(受付時間/営業日の9:00~17:00)

●ホームページアドレス <http://www.am.mufg.jp/>

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社(購入・換金の取扱い等)

[投資信託口座を通じたお取扱いの場合]

株式会社三菱東京UFJ銀行

[金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合]

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

(金融商品仲介業務等を行う登録金融機関:株式会社三菱東京UFJ銀行)

他の販売会社は、上記の委託会社の照会先でご確認いただけます。

## 本資料に関してご留意いただきたい事項

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した販売用資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡りする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。 ●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。 ●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。 ●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。 ●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。